

(2019年10月27日実施)

主催 公益財団法人 全国商業高等学校協会
令和元年度（第11回）会計実務検定試験 管理会計
審査基準

【1】

1	2	3	4	5	6
サ	ク	オ	カ	イ	シ

【2】

問1

(1) 損益分岐点の売上高

4,500,000 円

損益分岐点の販売量

2,500 個

(2) 販売量が10%増加した場合の予想営業利益

1,101,600 円

(3) 販売単価が10%増加した場合の予想営業利益

1,332,000 円

(4) 安全余裕率40%の売上高

7,500,000 円

問2

(1) 段取作業費の当月予定配賦額

1,500 千円

(2) 製品Yに対する製造間接費集計額

11,040 千円

(3) 製品Zの当月製造原価

33,510 千円

(4) 配賦差額がもっとも大きかった費目

梱包 費

640 千円 (有利 ・ 不利)

【3】

問1

(1) 製品Xの販売数量

38,000 個

(2) 直接労務費の金額

9,760,000 円

(3)

見 積 損 益 計 算 書

令和〇年第1四半期

(単位：円)

製 品	製品W	製品X	合 計
売 上 高	(24,360,000)	(16,530,000)	(40,890,000)
売上原価	(16,800,000)	(11,400,000)	(28,200,000)
売上総利益	(7,560,000)	(5,130,000)	(12,690,000)
販 売 費			(4,517,800)
一般管理費			(3,328,200)
支 払 利 息			112,000
当期純利益			(4,732,000)

問2 売上総利益差異の分析

(1) Y製品の販売数量差異

140,000 円 (有利) ・ 不利)

Y製品の総利益額差異

(単位売上総利益差異)

154,800 円 (有利) ・ 不利)

(2) Z製品の販売数量差異

63,000 円 (有利) ・ 不利)

Z製品の総利益額差異

(単位売上総利益差異)

162,000 円 (有利) ・ 不利)

【4】

(1)

		全部標準原価計算による月次損益計算書	(単位：円)
I	売上高	(8,400,000)
II	売上原価		
1.	月初製品棚卸高	(252,000)
2.	当月製品製造原価	(3,906,000)
	合計	(4,158,000)
3.	月末製品棚卸高	(378,000)
	差引	(4,620,000)
4.	原価差額	(△ 100,000)
	売上総利益	(4,520,000)
III	販売費及び一般管理費		
1.	販売費	(1,140,000)
2.	一般管理費	(2,940,000)
	営業利益	(1,580,000)

(2)

		直接標準原価計算による月次損益計算書	(単位：円)
I	売上高	(8,400,000)
II	変動売上原価		
1.	月初製品棚卸高	(212,000)
2.	当月製品製造原価	(3,286,000)
	合計	(3,498,000)
3.	月末製品棚卸高	(318,000)
	差引	(5,220,000)
4.	原価差額	(△ 36,000)
	変動製造マージン	(5,184,000)
III	変動販売費	(240,000)
	貢献利益	(4,944,000)
IV	固定費		
1.	製造間接費	(704,000)
2.	販売費	(900,000)
3.	一般管理費	(1,800,000)
	営業利益(直接標準原価計算)	(1,540,000)
V	固定費調整		
	月末製品・仕掛品に含まれる固定費	(100,000)
	月初製品・仕掛品に含まれる固定費	(60,000)
	営業利益(全部標準原価計算)	(1,580,000)

【5】

(1) 各年度末の税引後キャッシュ・フロー

第1年度末	第2年度末	第3年度末
9,375,000 円	10,800,000 円	9,825,000 円

(2) 会計的投資利益率
(投下資本利益率)

3.7 %

(3) 回収期間

2 年 9 カ月

(4) 正味現在価値が 734,168 円 となり,

(正・負) の値を示しているので、本投資案を採用 (すべきである・すべきでない)。

(5) 内部利益率

5.4 %